

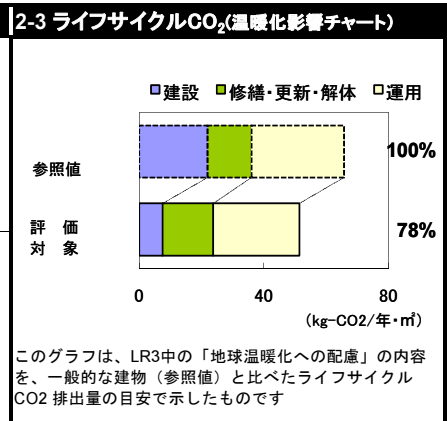
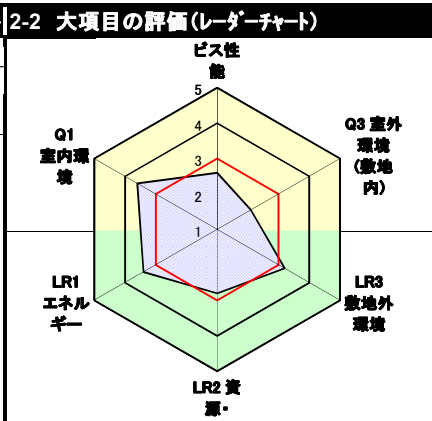
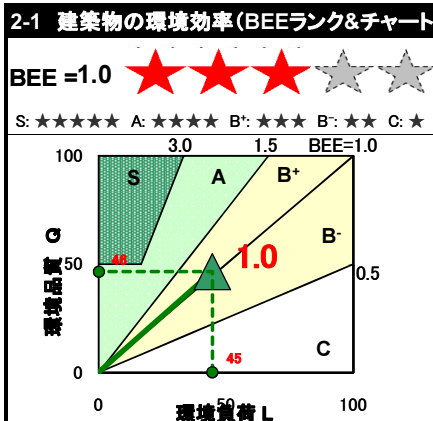
CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

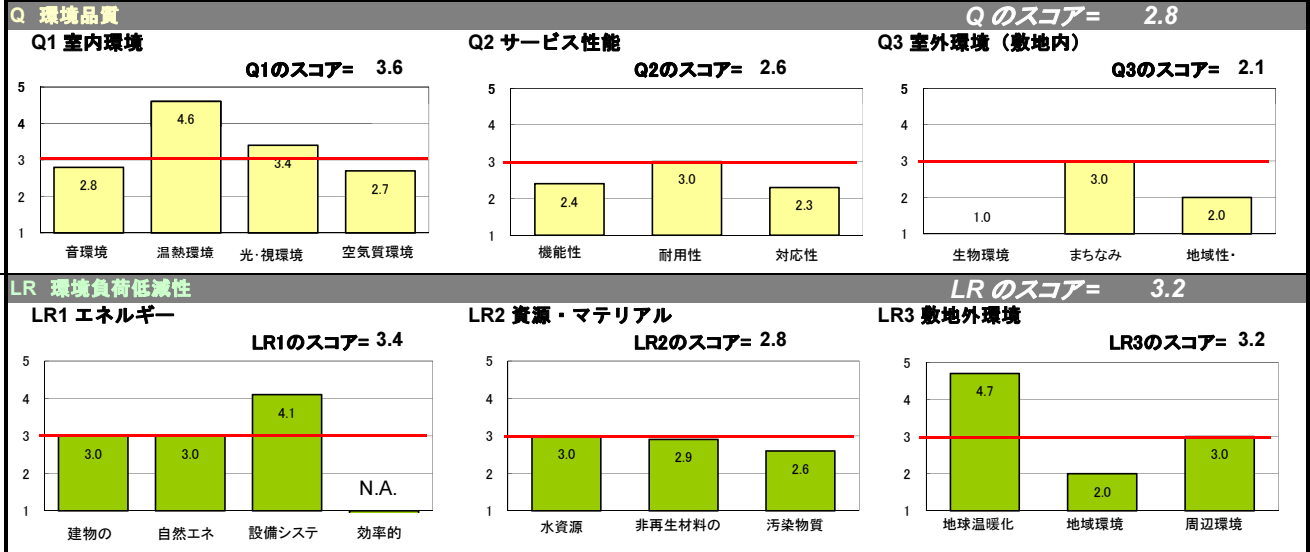
■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)グラン・コート西京極Ⅱ	階数	地上7F
建設地	京都市右京区西京極徳大寺団子田	構造	RC造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	264 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2010年1月 予定	評価の実施日	2009年2月21日
敷地面積	2,303 m ²	作成者	
建築面積	1,063 m ²	確認日	
延床面積	5,107 m ²	確認者	

外観/パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合	その他
安全で快適な生活空間をめざすことはもとより、「子育てにやさしい住まいと環境」をコンセプトに、安心(共用部の監視カメラの設置等)・安全(浴室のカランが熱くならない機種や、コンセントカバーの採用等)なマンションの設計を行った。	0
Q1 室内環境 共用部及び住戸のすべてに遮音性能T-2のサッシを採用し、外部の音に対する室内環境の向上を配慮した。また住戸のバルコニーを極力設置することで日射を遮る配慮を施した。	Q3 室外環境(敷地内) 道路に面する部分に植栽を行い地域に対するアメニティの向上を配慮した。また1階共用部に木目の床材を敷き込みベンチを配置しマンションの住民が集いコミュニケーションが図れる環境づくりをめざした。
LR1 エネルギー エントランスや共用廊下、階段や街灯の照明においてはタイマー制御を行い、消費電力の抑制を配慮。またエレベーターのインバーター制御の採用により省エネを配慮した。	LR3 敷地外環境 駐車場や自転車、バイク置場を確保し、路上駐車のないよう配慮した。住戸の空調機設置は入居者によるが、隣接地への騒音の影響を配慮し、室外機が敷地境界ぎりぎりの配置とならないよう計画を行った。
Q2 サービス性能 住戸内の各室において、扉や、造作材に木目の材料を導入し、住空間での居心地が向上するように配慮した。また南側の窓を極力大きく確保し、リビングやキッチンまわりが快適な空間となるように工夫した。1階の床下は全	LR2 資源・マテリアル 水栓に節水型を採用し水資源の保護に努める。非再生資源の削減や、リサイクル製品の使用努力については、今後できるだけ努力が必要。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency (建築物総合環境性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される